

「今が大切」

校長 星野 貞邦

清々しい風、澄みきった空、木々の紅葉のはじまりなど秋の気配を感じる季節となりました。このたび吹奏楽部が、新潟県新潟市で開催された第23回西関東吹奏楽コンクールにおいて埼玉県代表として参加し見事金賞を獲得し、全国出場枠3校の中に入り全国大会出場が決まりました。本当におめでとうございます。さらなる全国大会での活躍を期待します。

さて、先日開催された文化祭では、約1000名余りの保護者・地域の皆様のご参観をいただき、生徒の日頃の活動の成果等を観ていただき感謝を申し上げます。文化部の生徒が夏休み返上で一生懸命に取り組んできた展示や発表は、多くの人に感動を与えたと思います。また、合唱コンクールでは、生徒たちは、合唱コンクールに向かって音楽の時間はもちろんのこと、放課後も元気で大きな歌声を響かせていました。その歌声を校長室で聞いていると、どのクラスもコンクールが近づくにつれて練習に熱が入り、クラスで選曲したそれぞれの曲にあった感情表現、音の強弱、きれいなハーモニーが少しずつ完成に向かっていくのを感じました。そして、本番では、どの学年もすばらしい合唱を聴かせてくれたと思います。特に、3年生は、最上学年として誇れる合唱だったと思います。この頑張りを次のステージへ！

話は変わりますが、私が3年生の担任になった2学期に、必ず前の黒板の隅に書く、好きな言葉がありました。それは「今が大切」という言葉です。この言葉は、私が入学した大学の図書館に、初代学長であった本多光太郎先生の言葉として写真とともに掲示されていた言葉です。本多光太郎先生は、愛知県の農家の三男坊で、小学校のときは、「鼻たらしの光ちゃん」と呼ばれ、ビリに近い成績であったそうです。また、小学校の先生から「おまえは理解が遅いから人が一回やるところ三回やれ」と言われたそうです。しかし、十一歳で父親を亡くしたときから「生まれたからには、世の中のためになることを一つや二つはしなくては」と勉強に励み、「人間は粘りだ、努力だ」と人の二倍、三倍かけて努力を重ねたそうです。その後、大学に進学して物理学を学び、小学校の先生から言われた「何でも三回」の精神でコツコツ努力し、世界最高性能の永久磁石鋼（KS鋼）を開発し、「鉄の神様」と言われました。

「今が大切」という言葉は、勉強でも、部活動でも、行事でも、遊びでも、まず、自分の今やるべきことに集中して、今の時間を大切にすることだと私なりに解釈しています。人生でも仕事でも、その時その時の「今」の積みかさねの結果でしかありません。今を大切にしなければ、明るい未来は開きようがありません。勉強でも、人との付き合いでも、今を大切にすることによって、充実した人生が築かれると思います。生徒の皆さん、「今が大切」の気持ちを持って、10月以降も頑張りましょう。

最後に、今週の9月30日（土）より、新人体育大会が始まります。1、2年生にとっては、新しいチームになって最初の大きな大会です。「岸中 前へ！」の精神で、これまでの練習の成果を十分に発揮した精一杯のプレーを期待しております。保護者の皆様におかれましては、会場に赴き応援をしていただければと思います。